私の消防団PRIDE

第 14 回 保土ケ谷消防団第一分団 河野団員

令和３年４月１日掲載

第一分団第５班の河野美千代と申します。

入団のきっかけは、既に団員だったママ友からのお誘いでした。

消防団の知識もなく、不器用な私には不向きと思いながらも、「女性団員の役割は後方支援だから大丈夫。やってみようよ！」という言葉に入団を決意しました。

当初は、女性団員７名で、今井消防出張所長から応急手当やロープ結索訓練を受けました。当時は、下の子がまだ小学生だった為、訓練時間が平日の昼間だったことは、私には大変有り難いことでした。

その後、女性団員のみの活動から、第５班での活動へとシフトされました。数年前からは、班の垣根を越えて第一分団全体でも多く活動しています。

春と秋の年２回の火災予防運動期間の第５班は、２名で積載車に乗り、町内を巡回します。時間は、午後７時から８時。思い返せば、普段のこの時間は、子ども達にお弁当箱や汚れたユニフォームを早く出すように、お風呂や夕飯を早く済ませるようにと、せき立てている時間でした。年に２回のことですが、巡回の日は、家事のルーティンが１時間繰り下がり、いつも以上に慌ただしかったです。現在は、おかげさまで、子ども達も成人し、時間に余裕ができています。

一昨年、実際に細い木の枝を使ったチェーンソー取扱い訓練に参加しました。エンジン音は好きになれそうにありませんが、枝を切り落とした瞬間は、ちょっとした達成感を味わうことができました。

今、私が携わりたいことは、地域防災拠点での活動です。避難してきた方の不自由さを少しでも減らした拠点づくりを地域の方々と考えていきたいです。

元来、私は体力もなく、記憶力も良くなく、気合いも、他の団員に比べるとだいぶ控えめです。技術力も、後から入団された方に追い越されています。

ただ、こんな私が、地域防災に関心を持ったのは、やはり消防団員だからだと思います。色々な体験が私を導いてくれています。今後も、気負わず、自分のペースで、地道に活動を続けていきたいと思います。

そして最後にお伝えしたいことがあります。

得るもの、心を動かすものが、消防団にはあります。眠っていた才能が開花するかもしれません。

自信がなくても、興味がなくても、消防団に足を踏み入れてみませんか？きっと、新しい自分に出会えます。

私の消防団PRIDE

第 15 回　保土ケ谷消防団第二分団　中村分団長

令和 3 年 4 月 15 日掲載

■ 消防団活動を始めたきっかけ

私は平成 8 年に入団し 25 年になります。きっかけは義父が消防団員を定年で引退し、その後を受ける形で消防団の方から誘われて入団しました。入団を決めた動機は、出身が秋田県で、横浜には知り合いがほとんどいませんでしたのでこの横浜の地で地元の交友関係を広げたいとの思いがあったことと、何か社会のために自分が役に立てることはないかと思っていた時期でもあり入団を決意しました。長年の消防団活動により消防団つながりでいろいろな方にめぐり合い横浜に友人知人がとても多くなりました。

■ 消防団員として成長した時

入団して数年してから、小型ポンプ操法の選手に選ばれて、横浜市の大会に参加させてもらったことが、消防団員として大きく成長したことを感じております。チームでポンプを操作し放水し消火するまでのタイムを競うのですが、消防団活動の基本である、火災等の災害時にいかに安全に対応できるかの基本を理解できた貴重な経験でした。また、参加メンバーのみならず、その訓練を支えるために長い期間支援してくれる団員も含め強いきずなを作る大変良い機会なりました。

■ 消防団員の自覚

私も 65 歳を過ぎており、高齢者に属しております、消防団活動を続けるためには体力的にも厳しくなることと思い意識して体力維持を考えていかなければと思っています。昨年の緊急事態宣言が出てから、今何ができるかを考え、休みの日には朝ウオーキングを始めました、今年に入ってからは、スローですがジョギングにかえて調子のよい時には 6～8 キロほど走っています。コロナに負けない体力をつけるためにもなると思い、できるだけ頑張ってみたいと思っています。そのおかげで少し太り気味だった体重が 4 キロほど落ちました。

■ 消防団員になって得られたもの

消防団員は、会社員が多いのですが、いろいろな専門職の方も多く建築関係、電気関係、社長さんから現職の議員と様々な方が同じ団員として活動しております。このような方たちと訓練を通して身近に触れ合うことができたことは、私の人生にとって、とても貴重な機会を得られたと思います。

■ 消防団員として

消防団員は、一人一人の力は小さいのですが、団結することで大きな力を発揮すると思います。それにはやはり日ごろの訓練と団員同士のつながりが大事かと思います。コロナ禍でも災害は起こることをもう一度自分に言い聞かせ、消防団員として少しでも市民のお役に立てるよう、これからも頑張っていきたいと思います。

私の消防団PRIDE

第 16 回 保土ケ谷消防団第三分団 稲葉班長
令和３年４月29日掲載

こんにちは、保土ケ谷消防団第三分団第８班の稲葉です。

◇消防団を始めたきっかけ

ある日の昼間、自宅の斜め前のアパートで火事が発生しました。亡くなった方が出てしまったと聞きました。

自宅の目の前での火事ということもあり、すっかり他人事ではなくなりました。

住宅が密集して建てられている地域で、道が細く大型の消防車は入ってこられません。

自分の家がどの様にして守られているか気になっている時に、保土ケ谷公園で開催されていた区民祭りの消防団のブースで声をかけていただいた事がきっかけで、翌年の１月からは活動に参加しています。

◇消防団活動でのエピソード

２０１７年正式な入団直後の４月からポンプ操法の選手として参加し、保土ケ谷消防団のイロハを知るよりも早くホースを抱えて走る事になりました。

諸先輩方は「消防団になったからには一度は通る道」「消防団活動を知る一番の近道」と背中を押され、道具の名称を覚えるより早く、放水姿勢ができるようになりました。

体力には自信がありましたが、転職直後であった事もあり仕事と訓練の両立が大変でしたが、団の皆さんのバックアップのお陰でやり遂げることができ、最短で（？）一番肝心な火を消す方法を学べました。

2019 年には２回目のポンプ操法で今度はサポート、それに加え救命救急でも「応急手当指導員」の認定を受け活動の幅を広げ、地域に還元できる事を求めて活動しています。

◇保土ケ谷消防団でやりたい事、目指すこと

入団して分かったのですが、私の自治会は横浜新道を挟んで東西に分かれている為、地震によって橋が使用出来なくなると避難所に行くことができません。災害時に正しく非難や救護・応援活動に参加できるようにエリアの見直しをして頂けるよう、声を上げ、災害下に於ける環境リスクの低減に努めていきたいです。

◇性格・趣味・仕事で役立っている事

仕事は某通販会社の倉庫で安全管理担当をしています。

防災訓練や危険物管理、レイアウト変更や設備導入時の安全確認を仕事としています。消防団活動と関連する部分があり、知識や経験が仕事でも役に立っています！

私の消防団PRIDE

第 17 回　保土ケ谷消防団第四分団中村班長

令和 3 年 5 月 13 日掲載

保土ケ谷消防団第 4 分団第 2 班の中村と申します。担当地域は相鉄線の「西谷駅」周辺になります。

消防団に入団したきっかけは、小さい頃から顔なじみだった当時の班長（現在の分団長）からのお誘いでした。私は会社員のため、入団しても活動は主に土日に限られていましたが、「大丈夫、大丈夫！時間あるときでいいからさ～、どうかな～？」みたいなノリで勧められ、その時は正直言って、ん？消防団？という感じでした。

活動内容を詳しくは知りませんでしたし、活動の拠点となっている各消防団の器具置場（一度は見たことがあると思います）も、車などで通りすぎたとき、なんか不思議な建物があるな、くらいにしか思っていませんでした。

でも、何も分からない中でしたが、お誘いいただいたご縁と、人生の大半を過ごしている地元保土ケ谷のために、何かお手伝いできるならと思い入団しました。

今年の 11 月で入団 15 年になります。消防団の魅力は、団員みんなで志を一つにして地元のために活動できることはもちろんですが、年齢、性別、職種を問わずいろんな方々とめぐり会え、交流を持つことで自分自身の幅が広がることも魅力の一つと感じています。

消防団は、「火を消すことが役割」とのイメージが強いと思いますが、救命に関する知識・スキルの習得や、防災訓練のお手伝いなどを通じた、町内会、地域の方々との連携・交流など幅広く活動しています。

このコラムを読んでいただいて、やってみようかな？と思った方、入団を迷っている方、是非一緒に活動しませんか？

今は新型コロナウイルス感染拡大の影響で消防団活動も制限され、通常の活動ができていません。「PRIDE」と言えるほどのことでもありませんが、このような厳しい状況下であっても、消防団員としてできることをしっかりやっていこうと思っています。

私の消防団PRIDE

第十八回　保土ケ谷消防団第一分団　古屋団員
令和３年５月27日掲載

こんにちは、保土ケ谷消防団第一分団の古屋節子といいます。

私は、保土ヶ谷消防団になんと６５歳という年齢で入団しました。しかも男性ではありません。生まれた時から世間では女性に属します。

入団前は家庭防災員を３年程続けておりましたが、年齢的にそろそろ引退を考え、最後の会合に参加。その会の終わりに消防団員の募集の話があり、６５歳でも大丈夫なのかな？と、私の心のアンテナが敏感に反応。とりあえず、話だけでもと思い声をかけたつもりが、入団希望という事になり、団員の方が家に見えて書類にサイン。考える間もなく制服のサイズも決まり、まさにスピード入団となりました。

そんな私ですが、当初は制服姿で家を出るのに少々気後れを感じていました。というのも、制服を着ていると周りの方々から何でも出来ると見られてしまうからです。そのギャップを払拭するために、訓練には休まず参加しています。

入団当初は資機材は「重い」「固い」「冷たい」の三重苦。しかし、機材の扱い方や訓練の動作に慣れてくるにしたがって、それ程までには感じなくなり、基本動作の大切さを知りました。何よりも消防団の仲間達がピカイチ。入団して３年になろうとしていますが、まだまだ走れます。遠くも見えます。もちろん音も大丈夫。ただ唯一、記憶力が不十分です。でも、ピカイチ消防団の仲間達のささえられながら頑張っています。

実は私にとって冥土の土産と思うことがあります。

それは、２年続けて区内の出初式に参加できたことです。こんな体験は中々出来ないことだと思います。本当にうれしかった。

自分の中で意識が変わりました。

地域にも目配りをし、校門警備、みんなでキッチン、民生委員と、小さなこの想いが皆様の安心につながればと、地域の絆を願いつつ、定年まで勤めさせていただきたいと思ってます。

私の消防団PRIDE

第十九回　保土ケ谷消防団第二分団　高橋副分団長
令和３年６月 17 日掲載

私の入団時期は 2002 年４月ですので、本年で丸 19 年を迎えました。でも、当初の入団のきっかけは、近所に住んでおります私の飲み仲間の方の、仕事関係の友人である団員（私にとっては面識のない初めての方）からの強い勧誘で、飲み会の最中に入団する事になりました。

入団当初は付き合いで入団した経緯もあって、訓練の誘いには何かと別件の用事を言い訳として参加率５０％程度だったと思います。それでも団歴を ５ 年ほど過ぎる頃に、副班長と言う責任職を仰せつかるようになってからは、１００％の参加率になったと自分では思っております。

消防団としての訓練内容は幅広い範囲を実践するため、一通り熟す(こなす)には数年のローテーションが掛かります。

基本動作訓練…「回れ右！」などは、高校生時代以来約 30 年ぶりでしたので、頭の理解身体の動作が一緒にならず、最初は無様な格好だったと反省しております。

放水訓練…ホースと筒先を連結して実際に放水するのですが、最初は一番楽しかった（多分、これがやりたくて消防団に入ったのでは？）のですが、ホースの運搬方法や連結基本動作を学ぶにつけ、その奥深さや危険度を体験することとなりました。

積載車運転訓練…「赤色灯を回し、サイレンを鳴らせば堂々とスピード違反が出来る」ものと信じていた自分を反省しております。積載車を運転するときは普段の自家用車を運転する以上に、交通法規を遵守しかつ安全確認を徹底することを学びました。

資機材器具取り扱い訓練…普段の生活ではめったに触れることが無い資機材を、区民の救助活動に際して迅速・安全に且つ有効的に操作する技術を学びます。

心肺蘇生技術訓練…いわゆる「心臓マッサージ」を学びます。これは、普段の生活でも有効な知識です。3 年に 1 回技術更新研修がありますので、常に最新の情報を得ることが出来ます。また、指導員の資格も取得できます。この心肺蘇生技術は実生活でも絶対の絶対でマスターしておくべきものです。

その他多数の訓練・活動（大規模災害救助訓練や年末の警戒巡視活動など）
このような訓練は、なにも消防団員だけの知識や技術ではありません。我々（消防団員）を介して、地域の人たちに伝授してゆくことが大事なことだと感じております。このコラムを読まれました未入団の方は、是非、我々と一緒に消防団活動を通じて社会貢献に尽くしてまいろうではありませんか。

その為には、保土ヶ谷消防署の“消防団係”(045-342-0119)まで一報を入れてください。一緒に頑張りましょう。

私の消防団PRIDE

第二十回 保土ケ谷消防団第三分団 斉藤班長
令和３年７月１日掲載

第三分団第５班の斉藤千尋です。
旭区で生まれ育ち、保土ケ谷区には結婚してから住み始めました。
子供が生まれ、３ケ月の時に東日本大震災が発生。
その時に住んでいたマンションは、お隣さんも挨拶くらいしかしたことがなく、近所に知り合いもいなくて、主人も不在。
携帯電話だけが人とつながる手段で、とても心細かったのを覚えています。
初めての子育てでがちがちな頭。赤ちゃんにはおむつもミルクも必要だし、衛生も保たないといけない…でも周囲には気にかけてくれる人もいない。
幸いわが家に影響はなかったものの、被災地の状況を知るごとに「いざという時、助けてもらえたり、自分が誰かを助けられる力が欲しい」と考えるようになりました。
時が経ち、お祭りで子供が立ち寄ったガチャガチャにつられて立ち寄った保土ケ谷消防団の団員募集ブース。
話を聞くと、誰でも消防団へ入団できるとのこと。
団員から誘われるとか、元々地元の方、男性じゃなければ敷居が高いと思っていたので目から鱗でした。
でも、この段階では「まだ子供も小さいし、現実的に無理だよなぁ。いつかね…」で終わり。
何年か後の出初式、消防団の制服を着たママ友を見かけ…「え、小さい子供がいても入れたの？！！私も前から興味があったんだー！」なんて話をして、気付くとそのまま入団する流れになっていました（笑）
活動に出ていくには家族の理解が不可欠ですが、わが家はいつも「がんばってきて！！ママかっこいいー！」と送り出してくれるので、とても助けられています。
子供がいなかったら、あるいは消防団に興味を持つこともなかったかもしれません。
また、活動を通して自分が住む土地のことを教わり、地元の方とかかわることができたのが大きな収穫でした。
消防団員としてまだ半人前ですが、誰かの助けができる力を持てるようにこれからも精進します。

私の消防団PRIDE

第二十一回 保土ケ谷消防団第四分団 上條班長
令和３年７月28日掲載

私が横浜市保土ヶ谷消防団に正式に入団したのは平成23年、2011年１月のことである。

その前年、新井町自治会主催の夏祭りの盆踊り用の櫓（やぐら）組を「うっかり」手伝ったことから声を掛けられ、翌年の年初に正式に第四分団４班の班員となった。

入団当時、消防団と言えば自治会における主要団体であり、当時から新井町では４班消防団ではなく、愛称で「新井町消防団」と呼ばれていた。夏祭りの警備、稲荷神社の年始参りの火元警備、子供会餅つき大会の火元管理、自治会主催の防災訓練指導など、自治会活動密着型であり、地元の人からも名前を覚えていただき、新井町に根を下ろすことができたのも消防団活動あってと考えている。個人としては、大変充実した数年であった。

そして運命の2011年３月11日、東日本大震災が発生。東北地方に未曾有の被害をもたらし、さらに多数の消防団員の殉職をもたらした。消防庁の公式発表では、岩手県、宮城県、福島県の消防団員の死者・行方不明者の団員数は254名との報告がでている。

この震災をきっかけに消防団に対する役割や装備の見直しが、大きく進んだと実感している。平成24年消防白書に記載されているが、消防団活動の高度組織化（連絡体制・活動役割・安全管理体制の強化等）や、装備・教育訓練等の強化、活動予算の財政確保が進んだことがわかる。

結果として、高い規律意識を持ち、また充実した装備とそれを扱うことが可能な団員の育成が進み、地域防災の主要一角を成す防災組織が生まれようとしているのが今日と考えている。

半面、消防本部・消防署との組織連携が強化されるに従って、自治会活動密着型の消防団の活動シーンは激減し寂しいことこの上ないが、これもまた社会からの期待値の変化として、気持ちの整理をつけ、日頃の訓練や活動に邁進しているところである。

申したいこともある。消防団員は非常勤特別職の地方公務員扱いであり紛れもない防災目的を持つ組織体である。これは営利活動を目的とする会社組織体などと比較しても目的が違うだけで組織として何ら差異はない。

そのうえで・・・組織と主要活動を高いレベルで維持するために、何より必要なものは「ビジョン」と「ゴール」である。そのビジョンを達成するために団員全員が即答できるような「合言葉（ビジョンにどうやって向かうかの方針）」があってもよいのではないか考えており、これをこの場で上申したい。

消防庁の消防団員の説明では「自らの地域は自らが守る」精神が掲げられているが、これはビジョンというよりミッションであろう。

ミッション（果たすべき役割）と対となるビジョン（私たちの姿）を達成し続けるための、第四分団の合言葉は・・・何がいいだろうか。

私の消防団PRIDE

第二十二回 保土ケ谷消防団第一分団 村山班長
令和３年８月12日掲載

保土ケ谷消防団一分団の村山です。

消防団に入団した経緯ですが、街中で倒れている人と出会い、どうしていいのか分からず立ち尽くしたことがあり、普通救命講習を受けに行きました。

講習の先生に、忘れないように定期的に繰り返した方がいいと言われ、消防団に興味を持ちました。

でも、平日は仕事ですし、土日も予定が埋まることもあるため、消防団に入団しても迷惑になるだけではと入団を悩んでいました。

知り合いの消防士に相談したところ、「消防団の活動は強制では無いし、本職を重視していいから空いた時間に活動してくれればいいよ。」と言ってくれたのをきっかけに入団しました。

入団した当初は、救命訓練より消火訓練の方が多く、物足りなさを感じた時もありましたが、消火訓練もとても楽しく、ホース延長もまっすぐ伸びると心地良いですし、ロープの結索は暇があればロープをいじっていたりと、どんどん消火訓練にはまっていきました。

消防操法大会にも出場させて頂き、より知識や技術を鍛えられる場となり良い経験となりました。

消防団に入団している方々は、様々な職種で、年齢層も幅広いので、人間としても成長できました。家族の協力や理解がないと活動が難しい時もありますが、消防団で得た経験や知識等はかけがえのないものだと思います。

まだ火災現場に出動した事がないですが、現場できちんと動けるように訓練でしっかり学んでいきたいと思います！

私の消防団PRIDE

第二十三回 保土ケ谷消防団第二分団 高橋分団本部部長
令和３年 6 月 17 日掲載

第二分団本部　部長の高橋直大です。

私が消防団に入団したきっかけは、２０年以上勤めた会社を辞め自営に戻った時、小、中、高の先輩でお店のお客さんであった当時の分団長と班長(お客さん)が同時に買い物に来られ地元に戻ったのなら地域に貢献してはとのお誘いがあり入団致しました。

入団当初は、ここまで消防団活動に積極的に参加するとは思っていませんでした。

それでも、入団２年目に小型ポンプ操法の選手になり、毎日の訓練を重ねていくうちに消防団活動自体もどんどん楽しくなり、その後３回も操法の選手をさせていただきました。

操法のメンバーと日々訓練を重ねた結果として、区の操法大会で優勝し市大会に出ることができた時には喜びもひとしおでした。

他にも消火訓練や応急救護訓練、広報活動などを通じて他分団の方との交流もでき、地域での人との繋がりが広がりました。

積極的に消防団活動へ参加することで仲間が増え、結果として商売に繋がることもあります。

残念ながら、コロナ禍で平時と同じような充分な活動はできませんが、地域の為にこれからも頑張ります‼

私の消防団PRIDE

第二十四回 保土ケ谷消防団第三分団 金井班長
令和３年９月１6日掲載

皆さんこんにちは、第三分団第６班班長の金井竜一と申します。

上菅田町で生まれ育ち、結婚を機に現在住んでいる上星川へ引っ越してきました。

普段は東京ガス関係のガス工事の仕事をしていて、昼間は家にいないため、なかなか近所に知り合いもできませんでした。そんな時、子供の頃に地域の行事で優しく接してくれた消防団の方々のことを思い出しました。

すぐに消防署へ電話して入団について聞こうと思いましたが、その前に家族に相談したところ、当時はまだ子供が小さかったためもう少し待って欲しいと言われました。

それから約２年後、家族の了解を得て消防署へ自ら電話し、当時の上星川の班長を紹介していただき、入団する運びとなりました。

入団から３ヶ月後、右も左も分からない状態の時に、ポンプ操法大会の１番員として出場することが決定しました。

何もわからず不安でしたが、第三分団の諸先輩方のご指導のおかげで準優勝に輝くこともできました。

その後すぐに副班長になり、昨年より班長として消防団活動をさせていただいています。

まだまだ未熟なので迷惑をかけてしまっていますが、班員の方々や第三分団の先輩方に助けてもらいながら、楽しく、時には厳しく、これからも消防団活動を頑張っておこうと思います。

自分の生まれ育ったこの保土ケ谷で家族や、一人でも多くの地域の方を守れる人材に慣れる様に前進していこうと思っています。

私の消防団PRIDE

第二十五回 保土ケ谷消防団第四分団 磯部分団長

令和３年 10月１日掲載

第四分団　分団長磯部です。

昨年から引き続き、未だ厳しいコロナ禍の中、日夜モチベーションを維持して一緒に活動してくださる団員の皆様に大変感謝申し上げます。

私事ですが昔の話ですいません。

僕が保土ケ谷消防団に入団したのは昭和の時代でした。

きっかけは、地元で商売をしていたことです。

消防団をされている方から誘ってもらい入団いたしました。

まだ若く消防団の活動について理解もせず、しかし断ることも出来ずに入団したのですが、ポンプ操法の選手になった時にそれまでに教わってきたことが繋がり、ようやく「わかった！」となりましたね（笑）

当時は、私の周りに自営業の団員の方も多く、だからこそ訓練を沢山できたということもありました。

その後も、なんだかんだと言いながら結局ポンプ操法の選手を５回も経験させて頂きました。

気が付いてみれば、あっという間に 20 年。

大変でしたが嫌だと思った事は不思議となかったですね、楽しかった。

今思えば僕にとってステータスだったのかもしれませんね、現在は至らずも指導的立場にいながらいつも皆さんに助けられています。ありがたいですね！

気候変動でいつでも未曾有の災害が来る時代僕らは生かされています。

だからこそ助け合える仲間が必要です。

今の新入団員の方は志しがあり頼もしいですね！

この状況下で幾多の訓練が出来ない事は残念ですが、今は感染のないよう健康を守って下さい。

その日が来たら又、一緒に訓練に励みましょう。

また皆で楽しい飲み会が出来ますように。

私の消防団PRIDE

第二十六回 保土ケ谷消防団第一分団 石田団員

令和３年 10月14日掲載

令和３年１月１日付で保土ケ谷消防団に入団した第一分団第２班の石田と申します。

早速ですが、消防団に入団するきっかけを紹介したいと思います。

私は、横浜市内に工場のある会社に入社後、上司に勧められ工場の自衛消防隊に入隊をしました。

工場の自衛消防隊の活動は大変盛んであり、鶴見区の消防操法技術訓練会の小型ポンプ操法では常に上位に入賞し、鶴見区の代表として横浜市の同訓練会にも毎年のように参戦し、度々優勝していました（私は、屋内消火栓の選手で頑張りました)。

工場に約１０年間在籍した後、３つの国内の事業場に転勤して、何と２５年振りに再び入社した工場に戻り、今度は管理職として工場の防火・防災活動を管理する立場となりました。

赴任後、業務上で消防署の予防課長などとお話しさせていただく中で、横浜市の各区の消防団員の充足数のことをお聞きし、保土ケ谷区も団員が不足していることが分かりましたので、これまで自衛消防隊の訓練で培った経験を地元で活かし、少しでも貢献できればと考え、保土ケ谷消防団に入団しようと思いました。

そう思ったのも束の間で、１年９か月程で仙台へ転勤となってしまい、入団はお預けとなりましたが、１年で東京へ戻ることになりましたので、これを機に思い切って入団をしました。

入団手続きが進み、活動服が届き、辞令交付式で初めて着用しましたが、非常勤特別職の公務員として大変身の引き締まる思いであったことを今でも覚えています。

初めての分団の訓練に参加した時に感じたことは、指導にあたってくれている方々の情熱のこもった指導と、団員の方々はその指導を受け、真剣になってひとつひとつの動作を一生懸命に覚えているところが、みんな生半可な気持ちで入団した訳ではないなぁということでした。私より年上の６０歳を超える方々が、「結合よし！」等と大きな声を出している姿を、初めは想像していませんでした（笑)。

もし、入団するか迷っている方がいたら、入団した方が格段に自分の視野も広がるし、確実に自分のためになるので、迷わず、是非、入団することをお勧めします。

大きな声では言えませんが、現在の消防団員の方々はどちらかというと年齢が高めの方が多いので、次の世代に防火・防災の意識を引継ぐためにも、若いうちから入団して欲しいと思います。

仕事をしながらでも、無理せず活動できますので！ 以上

私の消防団PRIDE

第二十七回 保土ケ谷消防団第二分団 関野班長

令和４年 12月23日掲載

保土ケ谷消防団第二分団第５班で班長を務めている関野と申します。
私は、工務店の三代目としてここ宮田町に生まれ、この街で育ちました。
入団のきっかけは、工務店として付き合いがあった板金のお仕事をされている保土ケ谷消防団員から、入団の誘いがあったことでした。
その方が、祖父を「工務店の三代目として仕事をして行くならこの街に貢献しなくては駄目だ」の口説き文句で説得し、私は祖父から半強制的に入団させられました。
きっかけこそそんなことではありましたが、地域に根差した活動を続けているうちに今では班長として班員をまとめていく立場になりました。
☆ 団でやりたいこと、思い
気付けば私も、分団での年齢が高い方になってしまいました。
これからは、少しでも多くの若い団員に入団してもらい、私の知っている限りの知識や技術を伝えて、新しい世代を担っていく団員が育っていってほしいと思います。

私の消防団PRIDE

第二十八回 保土ケ谷消防団第三分団 城田副班長

令和４年 ３月10日掲載

私は 2011 年の東日本大震災がきっかけで、防災に対する意識を強く持つようになりました。

当時、自治会の役員として参加した消防訓練で、自治会の自衛消防と消防団が中心になり地域住民に初期消火や負傷者の搬送方法、AED と胸骨圧迫による心肺蘇生法の救命指導を行っており、自治会の消防防災意識の高さに正直驚くとともに、消防団への興味を持ちました。

その後も、自治会主催の放水訓練などに参加していく中で、当時の班長に誘っていただき保土ケ谷消防団へ入団しました。

入団当初は不安もありましたが、先輩団員の皆さんは真面目で、分からない事も丁寧に優しく教えてくれたので直ぐに馴染むことができました。

また、消防団の活動を通じて、自治会の役員や地域の方々とのコミュニケーションを図ることができているので、地域の活動も楽しく参加させていただいています。

コロナ禍になる前は、春と秋に自衛消防の方々と一緒に BBQ を開催し、和牛の希少部位を豪快に焼いたり、具材たっぷり彩り豊かなアヒージョの旨味がたっぷり染み出したオリーブオイルと共に食べるバゲットの最高に美味しい組み合わせに舌鼓を打ったり、桜チップを使って香り豊かに燻された様々な食材の燻製を頂いたり…ワインを飲みながら、どんどん酔いが加速してしまいましたが楽しい懇親会でした。（現在は、当然感染防止のために集まっての懇親会などは自粛中です。）

私が所属している、保土ケ谷消防団第三分団第８班の仲間は飲兵衛ばかりではありますが、皆さん真面目で優しい方々です。

保土ケ谷消防団のことを、もっと多くの若い世代の方にも知っていただいて、地域の高齢化が加速していく中で、消防団の活動を通じて地域と協力しながら防災の輪と助け合いの輪を広げていきたいと思います。